opusdei.org

仕事と家庭

聖性につながる活動である仕事についてこの記事は、仕事と家庭生活の両立に焦点を当てています。

2017/09/21

「働くことは家庭生活形成の基礎であって、家庭生活は人間にとって自然の権利であり、そこへと呼ばれているものです。一つは働くことと結びつき、もう一つは人間生活の家族的な性質と結びつく結果である二つの価値領域は本来それらしく浸透わされ、相互に本来それらしく浸透

しあっていなくてはなりません。」 [i]

家庭生活と職業生活の要求を両立さ せることがいつも簡単にできるとは 限りません。しかし、この点におい て生活の一致が実現されるよう努め なければならないのです。心に秩序 をもたらし、優先すべきことを分か らせ、生活の一致を実現させるのは 神への愛です。様々な関心事の中で 常に人々の善を優先させ、仕えるた め、愛徳によって働きます。この愛 徳の実行は秩序正しいものであるべ きで、まず、神が私たちに直接世話 を任された人たちから始めることで す、

家庭生活と職業生活は互いに支え あっているものです。家の内外での 仕事は「働くことは家庭を創立する ことを可能にする条件ともいえるこ とです。」というのも家庭は「成り 立っていく手段を必要とし、人間は 通常、働くことでこれを得るからで す。」[ii]

さらに仕事は家庭の目的を達成する ために欠かせない要素です。「働く ことと勤勉は家庭での全教育課程に も影響を及ぼすものです。というの も人間は、ほかのことと相まって、 働くことを通して『人間に成る』の であり、人間に成ることがまさに教 育課程の主な目的だからです。」 [iii]

聖家族はこの二つの領域をどのように一体化するかを教えてくれます。 聖ホセマリアは聖マリアと聖ヨセフの教えを学び教えました。お二人は その仕事を通してイエスが成長し生 活する家庭を築いたのです。

ナザレの模範はオプス・デイ創立者 の心に奉仕の学び舎としてこだまし ました。「そこ聖家族の中では誰も 出し惜しみしたりはしません。そこ では、自分の名誉、自分の時間や仕 事、自分の考えや好み、自分のお金について話すことはありません。そこでは全ての物事が人類のための神の超絶的なご計画、つまり『救済』の御業に仕えることだけに差し向けられています。」[iv]

聖ヨセフに倣う

「ヨセフが父の命令と聖霊のインス ピレーションに従うために、どのよ うにマリアとイエスに従われたかに 気づいてください。自らの存在のす べてを神に委ね、神への奉仕に人生 を賭けた方です。被造物でありなが ら、創造主を養い育てたのです。身 分の低い職人でしたが、仕事を聖化 します。この教えは、何世紀にもわ たってキリスト者に忘れられていま したが、オプス・デイがもう一度こ の教えを思い出させたのです。ヨセ フは自分の命を神に委ねました。全 心の愛を捧げ、全ての関心を主に向 けて、全力で神への奉仕に没頭した

のです。自分の存在自体と自分ができる全てを主に捧げたのです。ヨセフの人生の一部である日常の仕事を捧げたのです。」[v]

聖ヨセフは神の御子とその御母にを えるために働きました。彼が何を でのないたのか誰も知りまっていたのかは、 のかし、のかし、のかし、ののし、ののし、ののではかかではないないないです。 で多りまれたなりますがいまれたができまれたないです。 で多りまれたないです。 できれば、 できれば、 できないです。 できれば、 できれば、 できないです。

聖ヨセフの仕事は「贖い」という神 的人間的な企てが成就されるための 素晴らしい模範です。それは、救世 主であられる人間キリストにもっと も物的な面で仕えることでした。ヨ セフは、創造主に仕事を教え、自分 の仕事で万物の造り主を経済的に支 えたのです。働き詰めの日々でした が、疲れを家庭に持ち込むことな く、神の御子に目を注ぎ、父親とし てのお世話に精出されました。

聖ヨセフは、人生を「家族」のために捧げたことで救いの歴史における名誉ある地位に達しました。ヨセフは、家長としての義務 一旅行、転居、困難や危険一から要求されることによって仕事を軽視することはよって仕事を軽視することによって仕事を軽視することによって仕事は、聖ヨセフの仕事は、聖マリアの仕事と同じように、永遠に高い価値のものです。

仕事を自己主張や人間的な栄誉を目的にしてしまいがちな人間にとってなんと偉大な教えでしょう。聖ヨセフの栄誉は、人として成長し、知恵を増していくイエスを見ることであり[vi]、聖母に仕えることでした。聖なる太祖は愛情を込め、専門家と

して完璧さを目指して何時間も働きました。ヨセフにとって神を愛する 道は御子と御母だったのです。

神は私たちにも、様々な職業を通し てより近しい人たちに仕えつつ主に 出会い、主を愛することのできる チャンスをくださいました。多くの 人が机の上とか仕事場とかに愛する 人たちの写真や思い出の品を飾って います。それは務めの意義を自覚さ せ、仕事は自分のためだけではない ことを、またそのための犠牲が価値 あるものであることを思い起こさせ てくれます。もしも愛がなく、家庭 もなかったら、全ての人は仕事に価 値を見出すことができないばかり か、神をも見失い、代わりに虚栄心 が膨らみ、成功を追い求めたり 社会 的な体面を重んじたりするように なってしまうでしょう。

内的に分裂している人を見るのは心 痛むことです。彼らは無益に苦しん でいます。両立し得ない数多くの約 束ごとに縛られているのです。何も 手に入れることのできない努力をし ています。それは時間の不足による のではなく、心が秩序ある愛に満た されていないからです。彼らにとっ て家庭的な義務は専門分野での進歩 を妨げるものです。また、親しい友 だちを作る望みはありますが、人々 のことを考えたり配慮することはあ りません。全ての点で聖ヨセフの模 節が助けてくれます。聖ヨセフに とっては、聖家族のお世話と大工の 仕事は別々なものではなく、同じ現 実のことでした。働きつつ聖マリア に気を配り、その役目を通してイエ スへの愛を示したのです。その生活 は全く一貫したものでした。

急を要する使徒職

「忘れてはならないこと、はっきり 肯定しておかなくてはならないこと は、人間の働くことの社会的、そし

て倫理的秩序を形成するためのもっ とも大切な軸の一つは家庭であると いうことです。(…)事実、家庭は、 働くことによって可能とされる共同 生活体であり、同時に、すべての人 にとって最初に働くことを学ぶ学校 です。| [vii] 今、私たちは、人々の 生活と仕事の中心であるはずの家庭 に対するきちがいじみた挑戦を突き 付けられています。この挑戦にさら されている側面は多種多様です。第 一に、家庭固有の目的と緊密に結び ついた什事、すなわち、家事、特に 幼少期における躾け教育に愛情を傾 けて従事すること、あるいは 一家庭 の義務と決して取り替えてはならな い一 病人や老齢者の救援活動に様々 な形で協力することに対してです。

また、次のことも現代的な問題で しょう。仕事の計画を立てる際に、 家族との緊張が生じたり、家庭の義 務と両立できない状況が生み出され ることがありますが、それぞれ、で きる範囲で、そのような事態を回避 することは大きな挑戦です。たいま び次のようなことが起こっていま す。正常な家庭生活の進展が望めは す。正常な家庭生活の進展が望めは 気を長での父親あるいは母 親不在の時間を長くするような身 時間、これらは、家族への専門職を 親になることと社会での専門職を 親になることと社会での寛大な態度 に歯止めをかけています。

さらに忘れてならないことは、現代 社会の競争心をあおる風潮の影響を 受けて、特に若い人が、家庭での献 身と召し出しからの要求を耐え難い ほどの職責と両立させなければなら ない状態にあるということです。 度々、身動きの取れない仕事の日 程、そして家庭的な冒険に立ち向か うことをためらわせる少ない報酬で の生活を強いられている時代です。 他方、昇進のためには、就業規則に よって、度々、もっと働き、より自 由に扱われること、より多くの出

張…が要求されるのです。全て思えがあるのです。全でまうにあるのです。全に思えがたい大波のようを表がしたないまとを表がしたないない。というではないない。というではありません。の良いではない。ではありません。簡単なことではありません。簡単なことではありません。

人生は複雑であり、競争的な商があるのも確かです。仕事場での競争性を な雰囲気は、度々、てしまいますといます。 ひとしてるのはないものできないものとはできないものとはできないが降っていることはできないにはならないことです。 大化や社会、大化や社会、大化や社会、大化や社会、大化や社会、大化や社会、大化や社会、大化や社会、大化や社会、大化や社会、大化や社会、大化や社会、大化や社会、大化や社会、大化や社会、大化や社会、大化や社会、大化や社会、大人の表表がある。

心も変え得る神の助けがあります。 しかし、まず、神の賜という 希望に あふれて過ごすことです。主には全 てが可能なのですから。ナザレの聖 家族が示している奉仕と忘我、真実 で具体的な献身の模範をしっかりと 心に刻み込んでいるなら、家族のた め、そして私たちの真の宝である神 と付き合う時間を見つけることがで きるでしょう。生活の一致の秘訣 は、愛に燃え立つ心を持つことだか らです。この愛は、日々を、暗雲立 ち込める日をも、明るく照らし出し てくれます。

大きな挑戦を受けているのですから、使徒職が急務なのです。「社会のキリスト教的な秩序を覆そうとしている人たちは、家庭の崩壊をもまるしてその基盤と攻撃しての一致と結婚の目的を破棄して秩序を乱して秩序を教育する両親の権限を否定し、家庭を温かさも親密さもない公

的な施設 一巨大な国営巣箱の小部屋 のような一 にしようと、愛に基づく 絆を行政法の規則に変えていきま す。 | [viii]

家庭を二の次にする社会は、技術的経済的な進展が急務だからと言いなまるでしょうが、現実には社会ののです。なかませているのです。家庭を加速させているのです。では文明は退化し、途中でてているのにも停滞を来くそ者は、経済的にも停滞をなく者はます。教会は倦むことととなるときないます。とれるのです。

教会の使命の中で、今日、最優先させるべき点は、家庭を守る諸価値を支え、強化することです。社会の倫理的な品格は、各家庭の健全な倫理観に基づきます。多くのところで一般化していて、働く意欲を奪ってしまう汚職の原点は、正義を教えることをないがしろにしていること、そ

して家族間で仕え合うことの不足にあります。相応しい環境で成人になるよう導かれなかったら神の招きに 寛大に応えることも難しいということをも考えるべきです。

将来を担う世代は、今、主に家庭内 で受けている霊的倫理的手段を支え に活躍するはずです。家庭というに はな共同体でなされていることとの は、社会的に計り知れないほどの 値があります。多くの幸せが方 のです。この会 をはいるのです。まず自分の をはなら始め、努力を惜しまずに取り 組むことが大事です。

「子供たちよ、社会の中で、自分の 周りを清らかな水のオアシスにし、 魚を呼び込まなければなりません。 何よりも、清らかな水のオアシスを 増やし、川の浄化に努め、海水に清 らかさを取り戻さなければならない のです。」(聖ホセマリア、1973年5 月20日団欒のメモ)。

「このように教会は始まりました。 私たちキリスト信者は、社会にキリストの雰囲気をもたらすよう働かな ければなりません。

この使命を達成するために、スー パーヌメラリと協力者は、誰も取っ て代わることのできない役目を担っ ています。皆さんには、家庭での使 徒職を最優先させるべき責任があり ます。皆さんが、家庭に、子供の教 育に、真のキリスト教精神を根づか せようと一心に努めることで、キリ スト者の生活の模範となり、家庭が きれいな水のオアシスに変わりま す。そして多くの他の家庭に影響を 与え、オプス・デイへの召し出しが 増えるように助けることになりま す。」[ix]

[<u>i</u>] ヨハネ・パウロII世1981年9月14 日回勅「働くことについて」10番。

[ii] 同上。

[iii] 同上。

[iv] 聖ホセマリア、1974年11月14日 手紙2番。

[v] 「神との語り合い」87ページ(邦 訳)。

[vi] ルカ 2,52参照。

[vii] ヨハネ・パウロ二世、1981年9 月14日回勅「働くことについて」10 番。

[viii] 聖ホセマリア、1965年7月29日 手紙26番。

[ix] パドレ、2002年11月28日手紙 11-12番。 pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shigototo-kazoku/ (2025/11/19)